

会員だより

富田散策

涼しくなってきた 10 月 13 日、VG 槻輪のメンバーが小寺池図書館前に集合しました。太陽がさんさんとふりそそぎ、汗ばむほどの天気でした。



図書館前で出発準備

わが「まち」紹介で富田地区の見聞です。富田「高槻まちかど遺産」のガイドブックと「まちかど遺産」の散策ルート図が配布され資料の説明

高槻市全域に「ニヶ所」「まちかど遺産」が設置され、富田地区には現在 21ヶ所あります。そのことは、私は、知りませんでした。町の歴史を知るとは、私は、知りませんでした。

お正月は家族で、三輪神社へ初詣に来ています。思い出もありますが歴史などあまり知りませんが散策におしゃべりも交えて熱がはいりました。

歩きに歩きました。何度か何度か前を通りながらも、初めて本照寺（北摂の西本願寺で、正保 3 年(1646)本照寺に改められた）の本堂に上ることができました。

立派な阿弥陀如来を本尊とする浄土真宗の由緒あるお寺です。お香の香りがして散策の疲れが癒されました。お庭も拝見させていただきました。国の天然記念物だった「富寿栄（ふすえ）の松」

私は、JR の北側の氷室町に住んでいます。富田には、わが家の墓がある常見寺や今村精肉店、道を自転車で飛ばして富田公民館、子供が小さい頃は北摂総合病院にお世話になりました。

質な米、名だたる米蔵、湧き出る阿武山系の清水の銘酒、生活用水や畑用の五社水、豪農・酒造の蔵元：富田を豊かに、富をもたらしした紅屋の祖である清水利重（大名に匹敵する豪商）、彼らの菩提寺、村々を守る寺社。



本照寺の本殿内で参拝へ

が境内いっぱい枝を広がっていた様子が目にうかびました。また、昔の若者たちが奈良の大峰山に修行に出かけ、無事に帰ってきて初めて立派な男子とみなされたとの事。

大峰山 日丸講石燈籠
日丸講は、奈良と和歌山にまたがる夜祭の聖地・大峰山を参拝するために、富田の入口で納められた講石燈籠です。この石燈籠は、江戸時代の文政 11 年(1828)に建立され、講石の先頭(頭石)の石などが刻まれています。参拝者は、古い講石によって成人の儀式も兼ねていたといわれ、講石には講石の儀式などを刻んで証明がつけられたことでしょうか。ここは富田の南出入口にあたり、登壇の方向には、明徳寺の講石が建立した記録も残っています。
高槻まちかど遺産 大峰山日丸講石燈籠

VG 槻輪の皆様へ

「VG 槻輪」の皆様、わたくしこの度、体の不調のため「VG 槻輪」の会を退会させていただくことになりました。

思えば 10 数年前入会させていただいてから、6 年前に大阪に転居してからも続けさせていただき今日に至りましたが、その間何のお役にも立ちませんでした。私としては、会報に拙い文章を投稿するのが生き甲斐の一つになっていました。

83 歳から覚えたパソコンで、文章を綴ることや写真を入れることなど会長様に教えていただき、だんだん出来るようになりました。

元気なうちは、文章を書くためにあちこち訪ね歩きました。足腰が弱ってからは、身の回りの小さな出来事を綴って投稿しました。幸いうまく修正などしていただき、採用していただきありがたく思っております。

私が行事に参加できなくなってから、新しく入会された方々も多く頼もしい限りだと思っております。

今後ともますます会が発展しますよう願っております。私の長い人生の中で最後の 10 数年を楽しみあるものにしていただき心から感謝しております。

皆様のご健康とご多幸を祈っております。

記：牧戸富美子

編集室後記

牧戸富美子さんが、入会されたのは、通院されていた病院の先生が、「VG 槻輪」を紹介されたので・・・と言って会長宅に見えました。

我々が経験していない戦時下で、電話交換手として仕事をしてこられ、何事にも意欲的で努力家で、人との友好を大事にされ、協調的な方です。



パソコン教室での牧戸さん

VG 槻輪の 10 周年記念事業の時には、各人に各業務を担当して頂きました。彼女には、写真担当をお願いしました。会食時、食事の素敵な楽しい写真を多く撮って頂きました。

パソコン教室でも、いつも熱心に取り組まれ、学んだことを必ず復習してこられました。



VG 槻輪 10 周年記念カメラ女子の牧戸さん

その責任感の強い行動には敬服しました。体の不調とのことで退会の申し出がありました。まず、お身体を大事にして頂き、これからは私たちの人生の先輩として、我々を見守りご指導をお願いします。

ウォーキング・散策、町並みをみながら歴史も学び、最後に疲れを癒しながら会食する、有意義な一日でした。



ウォーキング・散策後の親睦・会食会

年月がたち風化して、名前が彫り込まれた石塔籠もみましました。でも昔がついて、名前は読めませんが。昔のことを想像しながらよく歩きました。

記：宝角弘枝